

都市環境計画・設計の専門家である石川幹子博士に  
「歴史/文化を活かした」緑道の再整備について、ご意見を伺いました。

## 石川幹子博士 プロフィール

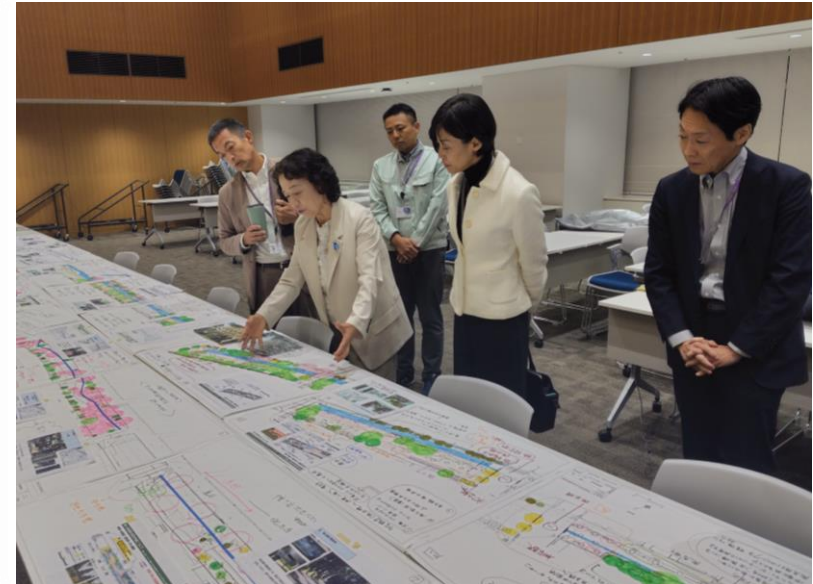
東京大学名誉教授/中央大学研究開発機構・機構教授  
ISCCL 日本代表 (International Scientific Committee on Cultural Landscape)  
日本イコモス 文化的景観国内学術委員会主査  
農学博士、技術士（都市及び地方計画）



笹塚緑道にて現場を見ている様子



植栽について意見交換をしている様子



再整備について意見交換をしている様子

明治神宮内苑の「御苑」を視察し、「生物多様性を活かした武蔵野の杜」についてご教授いただきました。

- ・「御苑」は、井伊家庭園に起源を有し、武蔵野台地の生態系や郷土固有種の保全を行い、約400年継承されてきた「武蔵野の杜」です。樹木の生育状況を例に挙げながら、植生構造や注意点、管理方法についてご助言をいただき、玉川上水旧水路緑道で導入すべき郷土種について、ご説明いただきました。
- ・森林群落の構造、移り変わり、樹種、四季折々の変化についてご説明をいただき、武蔵野の雑木林が丁寧な管理により、維持、更新されている実状をご説明いただきました。
- ・約400年枯れることのなかった“清正井”が枯渇状況であることをご説明いただき、『玉川上水は江戸・東京の“命の回廊”であることを心して、再整備にあたる』という共通認識を改めて確認しました。



約400年継承されてきた明治神宮『御苑』における武蔵野の杜



清正井の枯渇状況（2026年1月20日）

## 【手渡されてきた命の回廊を未来へ】

- 玉川上水旧水路緑道のケヤキ・スダジイ等が今日までに大きく育ち、豊かな都市林となっていることは、「渋谷区の宝」と高く評価していただきました。
- 「既存林の保全と更新のために、全区間において、根系の保全、外来種の確認、病虫害に侵されている樹木の精査が必要である」と、ご助言をいただきました。その中で、笹塚緑道の植栽の状況をご確認いただき、すでに枯れている植物は撤去しました。
- 「暗渠化後、緑道整備が行われた当時は、緑化植物の生産体制が十分ではなく、同種の樹種が数多く植栽されている」と、ご説明いただきました。現在、武蔵野の在来種をとりいれ四季折々の変化にとんだ、生物多様性豊かな緑道とするため、意見交換を行っています。



笹塚地区の国指定史跡



笹塚緑道の枯損した植物を撤去



幡ヶ谷緑道の樹木状態確認をしている様子

- 「笹塚エリアには、住民の皆様の請願により開渠として残った国指定「史跡」が2か所ある」と、ご説明いただきました。
- 羽村から四谷大木戸まで続く命の回廊とするため、清流復活を10年後にひかえ、「水」をどのように再生させるか、意見交換を行っています。
- 初台緑道にあるプランター内で大きくなった樹木は、「根が下に伸びていくことができず、移植も難しい状態であるため、再整備に合わせて撤去した方が良い」と、ご助言をいただきました。
- 「外来種のトウネズミモチは、強い繁殖力を持つため、生物多様性の観点から考慮するべきである」と、ご助言をいただきました。



初台緑道のプランター内樹木確認



初台緑道の外来種等の現況確認



意見交換の様子